



日本語教室の皆さん

特集 LIVING in YASUGI ～隣の外国人～

安来で
くらし

市内に住む外国人数は増加傾向にあり、安来にも国際化の波が押し寄せています。もしあなたの隣に外国人が引っ越してきたら？地域で外国人が困っていたら？一緒に暮らして行くにはどうしたらよいのでしょうか。今回の特集では安来に住む外国人の皆さんの声を通して、外国人との暮らしについてを考えます。



▲舶来屋で働く蔡さん（右）と同僚の井上力仁さん。
◀竹内ミラさん（中央）と安来苑の従業員の皆さん



安来在住の外国人にインタビューをしました。



竹内ミラさん

フィリピン出身。31年前に来日し安来市民に。24年前から日本旅館・安来苑に勤務。明るい笑顔がトレードマーク。2人の子どもを育てる。

日本旅館・安来苑で働く竹内ミラさんは、レストランの接客から館内清掃、客室対応まで何でもこなします。外国人も多い旅館。日本語・英語・タガログ語を使う竹内さんは、いなくてはならない存在となっています。

一接客に不安は？

勤め始めた当時は日本語で日常会話ができる程度で、難しい言葉や方言がわからなくて苦労しました。旅館の皆さんに助けてもらいながら楽しく働かせてもらっています。

一困ったところは？

例えば客室に案内すると座ってお茶を出しますが、習慣がないので作法などが全くわかりま

せんでした。こういった文化の違いが多くあり、旅館の先輩に教えてもらい覚えました。

一子育ての違い

日本の学校は設備や教育体制がしっかりしており、安心して子育てができました。反面、モノがあふれている分、日本の子どもは我慢強くないと感じます。

一安来の印象

寒さにはいまだ慣れませんが、真面目でやさしい人が多く安心して住める場所です。

一外国人への対応

フィリピンは、明るくフレンドリーな国民性なので、日本人の真面目な性格がよそよそしく感じる場合があります。肩の力を抜いて気軽に話しかけてくれたらきっと嬉しいと思います。

市内の洋食店・舶来屋でシェフとして働く蔡さん。主に厨房を担当し、難しいとされるハンバーグの調理を任されるなど、厚く信頼されています。

一働くきっかけ

当初、外国人の多い職場で働いていました。ある程度、日本語ができるようになったので母国の台湾で学んだ料理の世界に入りました。できあがった料理を見るとうれしいです。

一仕事で困ることは？

やはり言葉です。日本に来たときは日本語を話すことができませんでした。話したいけど上手く伝える事ができなくて、消極的になりました。今はメモを持ち歩き、言葉でわからないと

ころは、絵や漢字で教えてもらうようにしています。

一日本人の性格

自分に厳しく、礼儀正しくルールを守る人が多いです。ただ、台湾には敬語がほとんどないので、敬語で話されると距離を感じる場合があります。

一安来での暮らしは？

人がやさしく、自然の中で家族と落ち着いた暮らしができ、満足しています。台湾では幼少期から英語や数学を勉強しますので、子どもへのスポーツや体験活動が充実している日本の教育を受けることができ良かったです。来日当初、わからなくて苦労した安来の方言が、口に出るほど、安来の生活が染みついてきました。(笑)



ツァイハオ イ
蔡豪偉さん

台湾出身。結婚を機に6年前に奥さんの実家のある安来市に。趣味は日本の小説を読むこと。お子さんと奥さんの3人暮らし。



外国人に日本語の読み書きを

—日本語教室—

社日交流センターでは毎週日本語教室が開かれています。現在教室に通う生徒は、安来在住の外国人約10人。社日地区の人権を育てる会の会員の皆さんがボランティアで日本語を教えています。

この日、集まった生徒は7人。国籍は中国が1人、フィリピンが6人で、先生は5人です。市内はもちろんのこと、市外からも生徒を受け入れます。生徒は仕事を持つ人がほとんどで、毎週来られる人は多くないですが、可能な限り都合をつけて出席し、日本語を学んでいます。授業が始まると先生がテキストを読み上げます。生徒の習熟度には違いがありますが、同じ教材を使用。生徒らは、言葉を聞きながら読み方や意味の分からない単語をチェックしていきます。読み上げが終わると手をあげて先生に質問します。「先生この漢字の意味は?」「助手席は、運転手を助ける席なのでこの字なんですね。なるほど〜」。自分なりに解釈しながら、言葉を理解していきます。

教室は2時間程。終了後は、各自が持ち寄ったお菓子でお茶会が始まります。ここでは母国語が解禁。英語にタガログ語、日本語などさまざまな言葉が飛び交い、楽しげな声が響きます。

教室が始まったのは6年前。同会の高橋信義会長は「他市で日本に住む外国の方が困っている状況を聞いたからです。ゴミを出す日や、お子さん



の学校・保育施設での提出物がわからないなど日本語で困っている人の力になりたいと思いました。単に日本語を理解できるようになるだけでなく、運転免許証をとりたい、仕事に就きたいなど、外国人が日本人と変わらない生活を送られるように取り組んでいます」と話します。

授業を受ける大島ベベリンさんは「先生たちに本当に感謝しています。おかげで日本語の読み書きができるようになりました。また、ここでは外国人の仲間たちと思いのまましゃべることができます。これが最高の気晴らしです」とニコリ。外国人たちの憩いの場にもなっています。

日本語教室

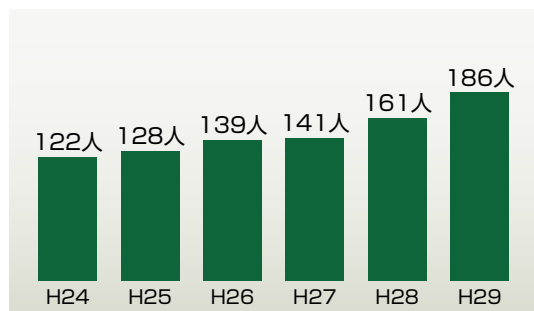
開催日 毎週水曜日

時 間 13時30分～16時頃

場 所 社日交流センター

●問い合わせ 社日交流センター
Tel23-2048

安来に住む外国人は増加しています

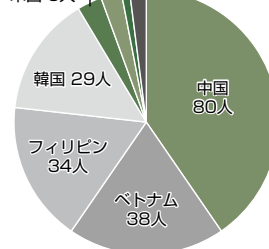


市内の外国人数

多くの国の人々が安来へ来られています

朝鮮 5人
米国 6人
インドネシア 2人
その他 4人

市内外国人
国籍別数



※各年 12 月末日
現在。

※平成 30 年 3 月
1 日現在。



日本人と同じように接してほしい

しまね国際センターで外国人向けのサポートや相談業務をされているお二人に外国人についてお話を伺いました。

一島根の第一印象は

八嶋アーリーンさん（以下、ア）
マニラと比べ想像以上の田舎で驚きました。ただ、住んでみると、町や水、空気がきれいで、人が多くなく静かで住みやすい。

一文化の違いを感じるどころ

李海冰さん（以下、李）。日本人は和を重視する傾向があります。反面、自己主張や個性が強い人を嫌います。外国人は個性を重視しますので、日本の地域



しまね国際センター

李海冰さん

中国出身。留学を機に20年前に島根県へ移住。

社会では浮く傾向にあります。

ア）日本人が気を遣い、はっきり言わないのは外国人にはわかりにくい。住んでみるとその良さも分かりますが、外国人にははっきり意思表示した方がよいです。また、ほとんどの外国人は敬語がわかりません。「召し上がる」よりは「食べる」と言われた方が通じます。

一生活する上で不安なところ

李）多くの外国人は災害が不安です。私も学生時代に鳥取西部大地震を経験しました。当時は避難方法も避難所も知りませんでした。地震の知識がなく、どうすればよいかわからず部屋から動くこともできず怖かったです。島根には多くの災害があります。外国人が地域に溶けこめばよいですが、多くは職場や学校から離れると、つながりが弱いです。センターでは外国人向けの防災訓練を行っています。ア）外国人は漢字が読めなくてもひらがなが読める人は多いで



しまね国際センター

八嶋アーリーンさん

フィリピン出身。結婚を機に島根に移住して23年。

す。市報や回覧板などにルビがついていればたいの外国人は分かると思います。重要な箇所に付箋をつけてもらうだけでありがたいです。

一外国人とつきあい方

李）日本人と変わらず平等につき合ってくれればうれしいです。外国人だから声をかけるとかではなく、地域に住む住民の一人として日本人と同じように扱ってもらえればうれしいです。

ア）まず、あいさつから。「こんにちわ」と始めてください。そこから相手のことを知り、お互いの違いを認め合い、思いやることが共生社会を築いて行く第一歩だと思います。

外国人の駆け込み寺

公益財団法人 しまね国際センター

県民の幅広い国際交流・国際理解を推進するために平成元年に設立されました。中国語、タガログ語、英語を話せるスタッフが常駐し、外国人の暮らしに関する相談、行政窓口や病院などへの通訳ボランティアの派遣、多言語による情報の発信など外国人へのサポート事業を行っています。

●しまね国際センター Tel 0852-31-5056
ホームページ <http://www.sic-info.org>

ごみの収集カレンダー・分け方早見表 中国語版・英語版を配布中です

ごみの分別方法を要約した「ごみ分け方早見表」と、お住まいの地区の収集日を記載した「ごみ収集カレンダー」の中国語版・英語版を環境政策課で配布しています。また、市のホームページにも公開しています。印刷してお使いください。



●問い合わせ 環境政策課 Tel 23-3100

